

「謙遜に聖書に注意を引く」

(資料:愛を込めて弟子を育てる>会話を始める レッスン4 謙遜に ポイント1(イ)、4.)

1. (愛込 L4P1 イ)パウロの謙遜さの中には神の言葉に頼ったことが含まれる

使徒 26:22 後「…私が語っているのは、預言者たちやモーセが起きると述べたことだけです。」
パウロが自分ではなく、ここでは特に「聖書に注意を向けていた」と示されている

2. (愛込 L4P4)聖書を基に話していることが相手に分かるようにするのは、なぜ大切

- ① 神の言葉には力があり(ヘブ 4:12)、神について知らない人の心を動かすことさえ可(テサ一 2:13)
- ② 神に頼って謙遜に奉仕していることを示せる(ペテ一 4:11)

3. どのように聖書に注意を引けるか

- ① 聖書の素晴らしさを強調する表現(世界のベストセラー、神からの手紙、人生の教科書)を用いる
- ② 冒頭の紹介の言葉の中で聖書に注意を向ける言葉を述べて、その後関連聖句に注目
 - ・この時代の終わりが近づいている印についてお話ししている(テモニ 3:1-5)、
 - ・この暗い時代が爽やかな時代に変化する確かな見込みについてお伝えしている(詩 37:9-11)
 - ・私たちが将来若さを回復できる確かな約束の言葉をお伝えしている(ヨハ 33:24-30)
 - ・なぜ聖書が時代を超えて世界のどこでも変わらず有益な理由をお話ししている(テモニ 3:16)
- ③ 聖書に注意を向ける質問してから、その後関連聖句に注目
 - ・エホバの証人が多少評判が悪くても諦めずに伝道を続けているのはなぜか? (コリニ 4:1)
- ④ 実際に聖書を開いたり、タブレットやスマホの操作を含めて聖句を示して、一緒に読む

4. 結論

では今日の奉仕では特に聖書に注意を向けるよう努めていきたい